

富山市教育委員会と富山市P T A連絡協議会役員との懇談会

第1分科会資料

日 時 平成29年10月25日(水) 午後6時15分
会 場 C i C 3階 学習室1～3、学習室5

「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果概要について

富山市教育委員会

I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

II 実施状況

- 1 実施期日 平成29年4月18日（火）
- 2 調査内容 教科に関する調査（国語、算数・数学）
質問紙調査（児童生徒、学校）
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
65校1分校	3,427人	26校1分校	3,458人

III 教科に関する結果の概況

1 教科区分別平均正答率

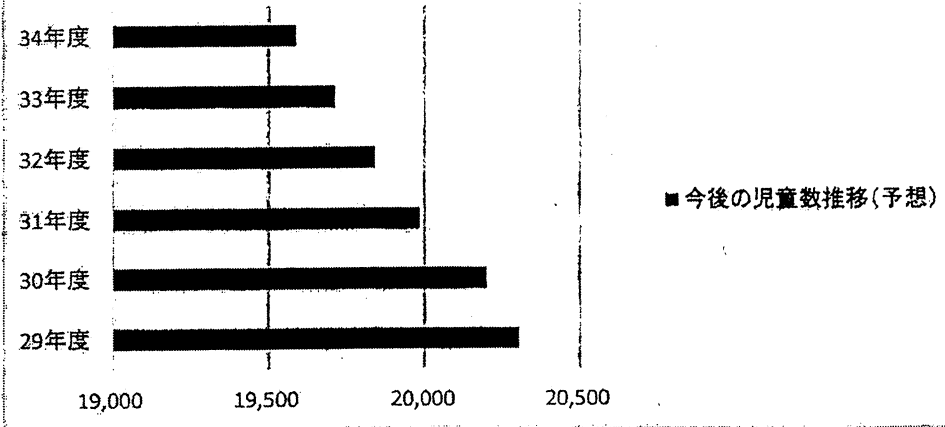
	小学校6年					中学校3年				
	国語A	国語B	算数A	算数B	合計	国語A	国語B	数学A	数学B	合計
富山市	79	62	84	49	274	80	76	68	51	275
富山県	78	60	82	47	267	80	75	68	50	273
全国	75	58	79	46	258	77	72	65	48	262

（A：主として「知識」に関する問題、B：主として「活用」に関する問題）

2 結果の概要

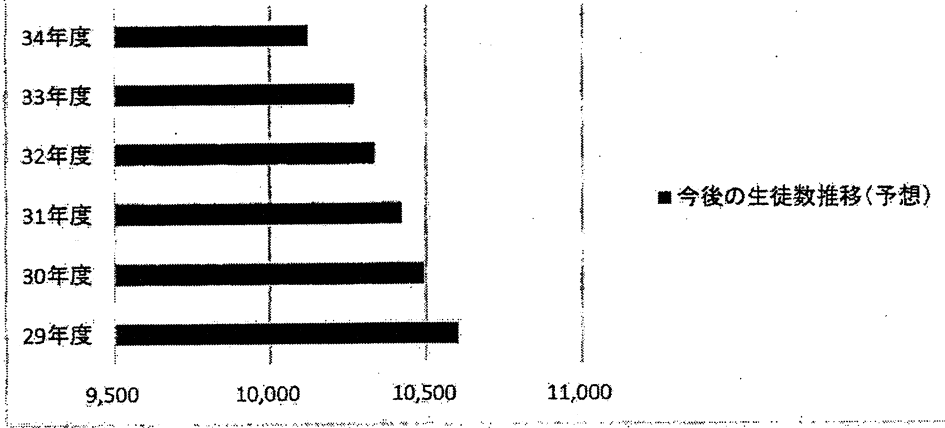
- ・ 平成19年度の本調査実施以降、教科区分別の本市の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。
- ・ 小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語Aは4ポイント、国語Bは4ポイント、算数Aは5ポイント、算数Bは3ポイント上回っている。
- ・ 中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語Aは3ポイント、国語Bは4ポイント、数学Aは3ポイント、数学Bは3ポイント上回っている。
- ・ 平均正答率を県と比較すると、小学校ではすべての教科で上回り、中学校では国語A、数学Aが同等で、国語B、数学Bが上回っている。
- ・ 平均正答率の合計は、小学校、中学校ともに、全国及び県を上回っている。

今後の児童数推移(予想)



※特別支援学級児童数を除く。

今後の生徒数推移(予想)



※特別支援学級生徒数を除く。

平成29年度 富山市立中学校新入生
学校選択制による通学区域外からの入学希望者数及び入学者数

富山市教育委員会

中学校名	受入枠総数 (A)	通学区域外からの 受入枠 (B)	通学区域外からの 入学希望者数 (C)	抽選実施 の有無	通学区域外からの 入学者数 (D)	入学者数
芝園中学校	137	39	62	抽選実施	37	130
堀川中学校	333	30	23	—	21	305
東部中学校	114	36	31	—	30	112
西部中学校	170	13	1	—	1	149
南部中学校	195	23	12	—	10	171
北部中学校	232	25	29	(※)	28	222
新庄中学校	266	12	1	—	1	203
岩瀬中学校	152	18	7	—	6	105
山室中学校	259	20	2	—	2	227
奥田中学校	235	36	43	抽選実施	36	229
大泉中学校	81	33	29	—	25	48
月岡中学校	76	21	0	—	1	42
呉羽中学校	198	25	10	—	9	185
水橋中学校	90	20	2	—	2	68
三成中学校	76	16	1	—	1	58
和合中学校	117	15	2	—	2	100
興南中学校	136	10	0	—	0	112
藤ノ木中学校	136	7	0	—	0	132
大沢野中学校	216	12	2	—	2	201
上滝中学校	114	17	6	—	6	102
八尾中学校	136	13	4	—	3	119
杉原中学校	78	11	0	—	1	59
速星中学校	380	16	5	—	3	331
城山中学校	117	12	6	—	6	107
山田中学校	20	8	0	—	0	10
楡原中学校	20	9	0	—	0	4
合計			278	2校	233	3,531

※ (A)～(D)の数値には、特別支援学級生徒は含みません。
 (B) (C) (D)の数値には、抽選免除者は含みません。
 通学区域外からの入学希望者数(C)は、平成28年11月17日現在の数値です。
 通学区域外からの入学者数(D)は、転出入等によって変動しています。
 (※)については、通学区域外からの入学希望者が通学区域外からの受入枠を上回っておりますが、受入枠総数に収まることが見込まれましたので抽選を実施しませんでした。
 入学者数は、入学式当日の数値です。
 通学区域外からの入学者数は通常級のみ的人数です。

富山市教育委員会
生涯学習課

1 「子どもかがやき教室」と放課後対策

(1) 「子どもかがやき教室」について

- 目的：心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、学校や社会教育施設を活用して、子どもたちの居場所を確保し、地域の大人の教育力を結集し、放課後や週末にスポーツや文化活動などの様々な体験活動や地域住民との交流活動を実施する。
- 実施地区：各小学校区のうち実施を希望する校区（地区）
※平成29年度は45地区にて実施
- 対象者：市内在住の児童・生徒
- 活動場所：校区の小学校空き教室や体育館、市立公民館等
- 開催日：放課後、土曜日等学校休業日

(2) 放課後対策について

全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごすことができる居場所について整備を進めていくため、平成26年7月に国が「放課後子ども総合プラン」を策定しました。

富山市においても、教育委員会と福祉部局で連携を図り、「子どもかがやき教室」と「放課後児童健全育成事業」（放課後児童クラブ、地域児童健全育成事業）を一体的又は連携して実施する総合的な放課後対策の推進に努めています。

2 親学び事業

- ・「親学び」の普及・啓発、推進を図るため、各中学校区に「小中推進リーダー」や「小中推進スーパーリーダー」を配置し、リーダー指導のもとPTA役員等が中心となり、学年学級懇談会や就学時健診等の機会に「親学び講座」を開催していただいています。
- ・市PTA連絡協議会内の家庭教育委員会と連携し、この親学び事業を通して、家庭・地域の教育力の向上を目指します。

情報教育

各教科等の学習活動の中で、計画的に情報活用能力や情報モラルを育てる。

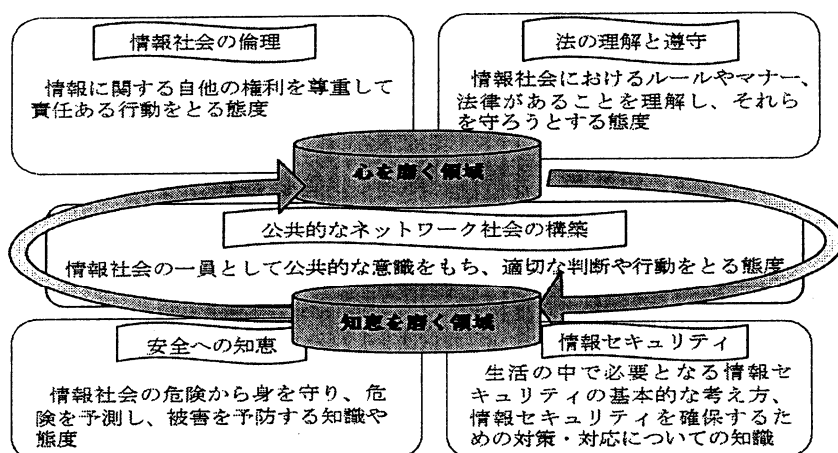
○ 方針

- 1 各教科等の目標を達成するために、子どもの発達の段階を踏まえた効果的なICT機器活用の指導計画を立てる。
- 2 分かる授業のための教具として、ICT機器活用の充実についての研修を行い、指導効果を高める。
- 3 必要な情報を主体的に収集・判断・表現し、受け手の状況を考えて発信・伝達できる能力を育てる。
- 4 情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度を育てる。

○ 重点

- 1 情報モラル（情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度）の育成
子どもが自ら考える活動を通して「情報モラル」を育成する。

〈情報モラル教育の内容〉



情報社会で生ずる各種のメリットやデメリットの両面から考える。

個人情報の大切さや、情報を発信したり受けたりするときは、必ず相手がいることを考える。

具体的な場面を示しながら考える。

- メールによるいじめ
- 掲示板での誹謗中傷 等

* 『情報モラル教育 実践ガイド』
国立教育政策研究所（平成 23 年 3 月）参照

2 分かる授業のためのICT機器の活用

目的や効果を考えて適切なICT機器を選択し、積極的に活用する。

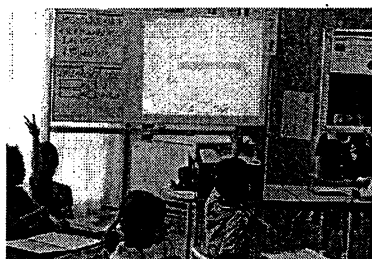
(1) 教師によるICT活用

- ① 子どもの興味・関心を高める。
(例) デジタル教科書等を活用し、実際に観察した現象と観察できない現象を関連づけて提示する。
- ② 課題を明確に提示する。
(例) タブレット端末（ハイブリッドPC）を活用して、一斉に資料を配信し、グループで話し合い、課題を焦点化させる。
- ③ 知識の定着を図る。
(例) ICT機器を用いたフラッシュ型教材等を活用し、子どもが集中して取り組むことができるようにする。



(2) 子どもによるICT活用

- ① 情報を収集したり選択したりする。
(例) インターネット等を活用して、最新の資料やデータ等から必要な情報を収集したり選択したりする。
- ② 相手に分かりやすく伝えるために、表現を工夫する。
(例) コンピュータやタブレット端末等を活用して、取材したことを文章にまとめたり、絵図や表、グラフを用いたりして、効果的に表現する。



* 『教育の情報化に関する手引き』文部科学省（平成 22 年 10 月）参照

情報教育

考え判断する場面を重視した情報モラル学習

情報モラル学習では、情報を操作することによって生じる「光」と「影」の部分をも十分理解した上で、情報手段を正しく使っていくための判断力や心構えを身につけていくことを重視する。

○ 1校時での展開例

課題意識をもつ

◆ 現在の自分と情報とのかかわりを知る

モラルって何だろう？

- マナーやきまり
- 社会で生きていく上で大切なこと

普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話（スマートフォンを含む）で通話やメール、インターネット等を利用しているだろうか？

- 学年が上がるにつれて利用時間が増加している。
- 2時間以上利用している人が、全体の23.6%もいる。
- こんなに使っていて大丈夫なのかな。

*「児童・生徒の生活等に関する調査」教育センター配付資料参照

子どもの実態に応じて、全小・中学校に導入しているデジタルコンテンツ「Netモラル」等を活用しよう。



ポイント1

自校の調査結果を提示することで、より身近な課題として、考えさせる。

ポイント2

SNSでは、相手の表情や声分からないことにも気づかせる。

意見を交流する

◆ SNS等の理解を深め、実際にあった事例で対応を話し合う

SNS等のよいところや怖いところは？

- いつでもどこでもすぐにつながる。
- 友だちの輪が広がる。
- お金がかからない。
- 止めたくても止められない。
- 知られたくない情報はあっという間に広がる。
- 顔が見えないので、勝手な発言をする。

実際の事例で考えよう。

B君は、他人の写真を無断で撮影し、中傷するコメントをつけてネット上に掲載した。第三者から不適切な行為であると非難され、過去のB君の書き込みから本名や在籍する学校名をネット上にさらされた。

- ネット上に一度あげたデータは、消えずに残るんだ。
- 誰が見ているか分からないので怖いと思う。
- 情報の発信源が特定できることを今まで知らなかった。



ポイント3

具体的な事例は、新聞記事やニュースの動画等を利用すると、より効果的である。

生活を振り返る

◆ 今後どのように情報手段を使っていくか考える

私たちはこれからどんなことを心がけていけばよいだろう？

- 自他の個人情報決して公開しない。
- 情報モラルだけでなく、日常モラルから身につけよう。
- 便利なものもたくさんあるので、正しく使いこなしたい。

ポイント4

学んだことを書いたり、話し合ったりすることで、情報を適切に扱うための正しい知識と判断力を身につける大切さを自覚できるようにする。